

「KYT4ラウンド法」とは

危険予知訓練とは、危険のK、予知のY、訓練(トレーニング)のTをとって、KYTといいます。職場の中の小集団によるチーム行動として、リーダーを中心として短時間ミーティングの中で、職場や作業にひそむ危険要因を発見、把握、解決するとともに、一人ひとりの作業者の危険に対する感受性や問題解決能力を高めることを目的としています。

KYTにはいくつかの手法があり、

- ・KYT基礎4ラウンド法
- ・ワンポイントKYT
- ・一人KYT
- ・ヒヤリ・ハットKYT
- ・問いかけKYTなど

があります。

どのKYTも目的は同じで、安全を先取りするために、行動する前危険要因を発見する感受性を高めるための訓練です。

ここでは実習として学んだ「KYT基礎4ラウンド法」について紹介したいと思います。イラストシートに描かれた職場や作業の中に「どんな危険がひそんでいるか」を職場のメンバーで話し合い、問題解決へ4つの段階(ラウンド)をへて進めていくものです。

始める前に、ブレン・ストーミングの4原則で、みなさんから多くの意見を聞きましょう。その中のきらりと光る質の高いものを発見することが大切です。

- (1) 批判禁止(よい悪いに批判をしない)
- (2) 自由奔放
- (3) 大量生産(何でもよいからどんどん出す)
- (4) 便乗加工(他人のアイデアに便乗してもよい)

まず、リーダーがメンバーの点呼を取り、健康状況などを確認しましょう。それではKYT基礎4ラウンド法の進め方を紹介します。

【第1ラウンド・現状把握】

- ①リーダーがイラストシートの状況を読み上げ、その状況にどんな危険がひそんでいるかを問いかける。
- ②メンバーは自分の身に置きかえ、危険要因(不安全行動・不安全状況)を発見し、それが引き起こす現象を想定して「～して～になる」、「～なので～になる」と発言していく。
- ③リーダーは全員から発言を引き出し、物の問題だけでなく、ひとや行動面の危険を発見するように促す。
- ④書記はメンバーの発言を模造紙に手早く分かり易く記載する。
- ⑤リーダーは、所定時間内にあらかじめ決めた項数以上に発言が出るように運営する。

導入	(全員起立) リーダー⇒整列・番号、挨拶、健康確認
1 R	現状把握：どんな危険がひそんでいるか リーダー⇒シートの状況読み上げ “危険要因”と“現象(事故の型)” 「～なので～して～になる」 7項目以上
2 R	本質追究：これが危険のポイントだ (1) 重要と思われる項目→○印 (2) →さらにしぼり込み 1～2項目 →◎印・アンダーライン=危険のポイント (3) →指差し喝和 リーダー「危険のポイント!～なので～して～になる ヨシ!」 →全員「～なので～して～になる ヨシ!」
3 R	対策樹立：あなたならどうする 危険のポイント → 具体的で実行可能な対策 → 各3項目程度 全体で5～7項目
4 R	目標設定：私達はこうする (1) しぼり込み 各1項目 → ※印・アンダーライン=重点実施項目 (2) → チーム行動目標 設定 各1項目 (3) → 指差し喝和 リーダー「チーム行動目標!～する時は～を～して～しよう ヨシ!」 → 全員「～する時は～を～して～しよう ヨシ!」
確認	(1) 指差し呼称項目 設定 各1項目 → リーダー「指差し呼称項目! ～ヨシ!」 → 全員「～ヨシ!」(3回) (2) タッチ・アンド・コール「ゼロ災でいこう ヨシ!」

【第2ラウンド・本質追究】

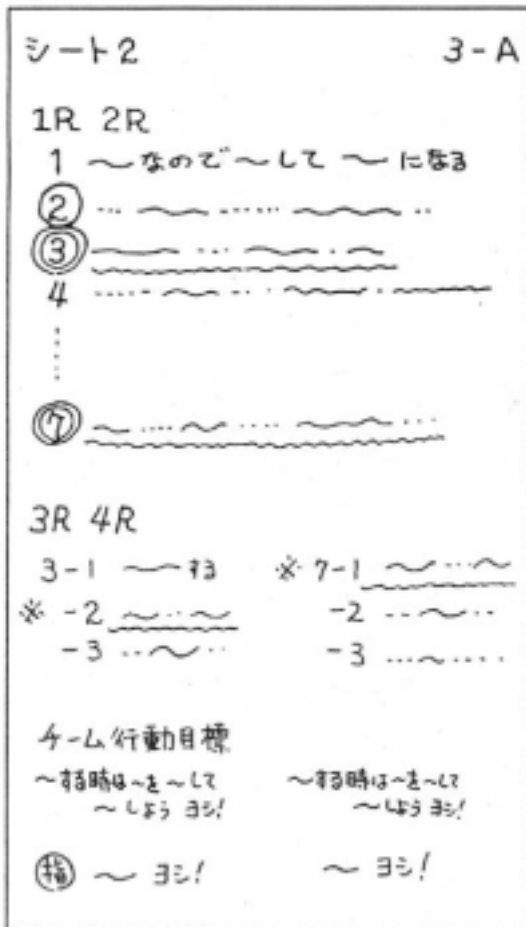
- ①第1ラウンドで書いた模造紙をみんなで眺め、リーダーはこれらの危険のうち、問題のある重要な危険は何かを問いかけ、一項目ずつ読み上げ、内容を確認していく。
- ②「これは問題だ、うっかりできないぞ」と思う危険に、赤マジックで○印を付けていく。○印は何個できて良い。
- ③○印項目のうち、「みんなの関心の高いもの、重大事故となる可能性が高いもの、特に対策に緊急を要するもの」に赤マジックで◎印を付け、アンダーラインを引く。
- ④◎印は多数決ではなく、チームの合意でメンバーが納得できるものとし、2, 3項目にしぼる。

- ⑤全員起立し、◎印項目をリーダーのリードで「危険のポイント ～なので～なる、ヨシ！」と指差唱和して、第2ラウンドを終わる。

【第3ラウンド・対策樹立】

- ①リーダーは、◎印をつけた重要危険要因について、それを予防したり、防止したりするのに「あなたならどうする」とメンバーに問いかける。
- ②「こういう状況ではこうしよう」、「こうすることが必要だ」という具体的で実行可能な対策を出していく。
- ③特に「チームとしてこうすべきだ」という実践的な行動内容の対策を重点に考える。
- ④1つの◎印について2, 3項目の対策を考え、対策のアイデアが出尽くしたところで第3ラウンドを終える。

模造紙の書き方 (KYT基礎4ラウンド法)



【第4ラウンド・目標設定】

- ①具体策の中で、チームとして「すぐ実施する必要のあること、どうしてもやらなければならないこと」を重点実施項目として、赤マジックで※印をつけ、アンダーラインをひく。
- ②※印は1つないしは2つとし、その項目をズバリととらえたスローガンのようなチーム行動目標を設定する。
- ③チーム行動目標はその状況の危険を解決するのに必要な当面の行動内容で、ありありと目に浮かぶものが望ましい。「～を～して～しよう」というように前向きな目標とする。
- ④※印の重点実施項目のうち、現場で実際に指差呼称確認すべき行動を一つとらえ、例えば「センター、ヨシ」、「三段積み、ヨシ」などの簡潔なワンポイント指差呼称項目を決める。
- ⑤チーム行動目標を全員起立して「～を～して～しよう、ヨシ！」と指差唱和し、ワンポイント指差呼称項目を大声で3回繰り返す。
- ⑥タッチ・アンド・コールを行って第4ラウンドを終わる。

…… グループ演習 ……

この研修会では参加者が5つのグループに分かれて、実際にKYT4ラウンド法の演習を行いました。当日、グループでまとめた実例によりKYT4ラウンド法の進め方を紹介します。

★まず、1ラウンド(1R)と2ラウンド(2R)に挑戦

KYT基礎4R法・シート1



状況 あなたは、肉厚鋼管(100φ×800mm)約16kgを棚から取り出し、台車に積んでいる。

●Aチームの場合

1ラウンド 「現状把握…どんな危険がひそんでいるか」

イラストを見ながら、メンバーの意見を7項目以上模造紙に書き上げます。

- 1、手に持った鋼管を自分の後方の台車に乗せようとして、腰をひねりギックリ腰になる
- 2、無理に2本持とうとしたので重さのあまり落とし足にあたる
- 3、後ずさりした時に、台車に当たり鋼管が転がり足に当たる
- 4、作業者と台車の幅が狭いため、後ずさりした時、台車に足が引っかかり転ぶ
- 5、鋼管が重たかったので手が滑り鋼管が足下に落ちる
- 6、重量物を高い位置から降ろしているので腰を痛める
- 7、何回も荷下ろしをするので手がだるくなり落とす

2ラウンド 「本質追究…これが危険のポイントだ」

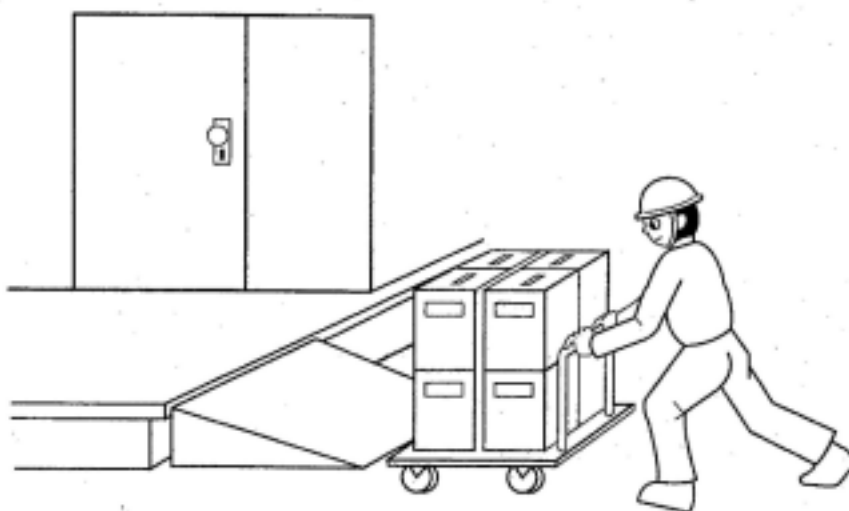
重要と思われる項目を選び、さらに1～2項目を絞り込みます。

Aチームのみなさんは、書き出した7項目の中から、1、3、4、7、の4項目を選んだ上で、全員のディスカッションにより、危険のポイントとして、1と4の2項目を絞り込みました。

- 手に持った鋼管を自分の後方の台車に乗せようとして、腰をひねりギックリ腰になる
- 作業者と台車の幅が狭いため、後ずさりした時、台車に足が引っかかり転ぶ

★1ラウンド(1R)から4ラウンド(4R)までやってみよう

KYT基礎4R法・シート2



状況 あなたは、台車に灯油(18リットルを8缶)を積んで運搬している。

●Bチームの場合

1ラウンド 「現状把握・・・どんな危険がひそんでいるか」

- 1、台車が下がってきて止めることが出来ず台車の下敷きになる
- 2、スロープの幅が狭いので灯油缶が転倒する
- 3、スロープを上がろうとした時、角度がきついので灯油缶が自分の方へ倒れる
- 4、スロープを後ろ向きに降りたので足を踏み外して転倒する
- 5、急なスロープと床面との段差があるので台車を乗り上げようとした時に車輪が段差に引っかかり台車が転倒する
- 6、スロープを上がった後、ドアが開いたので灯油缶が倒れる
- 7、8缶も積んで重量が重くなり台車が壊れ灯油缶が足元に当たる
- 8、スロープを急いで登ろうとしているので灯油缶が倒れる
- 9、灯油缶を8缶も積んでいるので前方が見えず台車がスロープに乗らず転倒する

2ラウンド 「本質追究・・・これが危険のポイントだ」

Bチームのみなさんは、書き出した9項目の中から、3、5、9、の3項目を選んだ上で、全員のディスカッションにより、危険のポイントとして、5と9の2項目を絞り込みました。

- 急なスロープと床面との段差があるので台車を乗り上げようとした時に車輪が段差に引っかかり台車が転倒する
- 灯油缶を8缶も積んでいるので前方が見えず台車がスロープに乗らず転倒する

3ラウンド 「対策樹立・・・あなたならどうする」

2Rで絞り込んだ「危険のポイント」に対して具体的で実行可能な対策を考えます。

- ・ スロープと床面との段差を無くす
- ・ スロープの傾斜をゆるくする
- ・ 灯油缶を半分に分けて運ぶ
- ・ 灯油缶を2段にしない
- ・ ローフを掛ける

4ラウンド 「目標設定・・・私達はこうする」

3Rで立案した対策をさらに絞り込み重点実施項目として、チーム行動目標を決定します。

「対策の絞り込み」

- ・ スロープと床面との段差を無くす
- ・ 灯油缶を2段にしない

「チーム行動目標」

台車で灯油缶を運搬する場合は、2段積みをせずに段差がないことを確認しよう

確認 「指差し呼称項目設定」

最後に「確認」として指差し呼称項目を設定し、全員で大きな声で指差し呼称を行います。

「1段積み ヨシ！！」

ここで紹介した事例は、正解もしくは模範解答と言うことではありません。同じ作業を対象とした場合でも、メンバーの経験や知識などによって危険予知に対する着眼点は異なってきます。日常の様々な作業に対して一人ひとりが常にKYTの意識を持って着眼点を養っていくことが大切です。